

私たちは日々、世間の常識やSNSなど、無数の「声」の交差点の中に生きています。それらの声は「こちらが正しい」とまるで羊飼のような顔をして呼びかけてきますが、本日の御言葉は、雑音に惑わされる私たちに「あなたが従っているその声は、本当にあなたを生かす『まことの羊飼い』の声か、それとも『盗人』の声か」と厳かに問いかけます。

この「羊の門」の比喻は、直前の9章で盲人を癒された主イエスを破門したファリサイ派に対する、鋭い告発の文脈で語られています。パレスチナの羊は、後方から追い立てられるのではなく、常に先頭に立つ牧者の後を歩みます。何より決定的なのは、羊が牧者の独特な「声」を完全に記憶している点です。他人が羊飼いの服を着て偽装しても、羊は決して動きません。装いではなく「声」に従うからです。私たちの信仰の原点もまた、世界の雑音から主の「まことの声」を聴き分けることにあります。

主は、ご自身という「門」を通らず、自身の権力や地位というバイパスを使って群れを支配し、自己保身のために神の民を「いけにえ」にして切り捨てる偽りの指導者を「盗人」と激しく非難されます。一方で、主イエスは「**私は門である。私を通して入る者は救われ、また出入りして牧草を見つける**」（9節）と宣言されました。魂が永遠の命と真の救いに達するための門は、主イエスという「唯一の門」しか存在しません。

主は、私たちが他のどのような雑音にも惑わされず、ただ十字架と復活によって開かれた門をくぐり、その声だけに耳を澄ますことを求めておられます。私たちの名を呼び、暗闇から連れ出してくださる主の声だけが、私たちを本当の平安と豊かな命へと導くのです。世の喧騒の中で、主イエスのまことの声だけを聴き分ける確かな群れとして、この一週間の歩みを整えてまいりましょう。